

第63期 株主通信

平成22年4月1日～平成23年3月31日

sawai TODAY



patients
first



ジェネリック医薬品のトップブランド

沢井製薬株式会社

証券コード 4555

企業理念

なによりも患者さんのために

patients first

- 1 「真心をこめた医薬品を通じ、
人々の健やかな暮らしを実現する」
それが **sawai** の使命です。
- 2 「創造性を追求し、
革新と協調により社会と共に成長する」
それが **sawai** の挑戦です。
- 3 「お役に立ちたいという心を持ち、
なくてはならない存在になる」
それが **sawai** の願いです。

CONTENTS

ごあいさつと業績のご報告/ 第63期 連結財務ハイライト	1
Top Interview	3
sawai TOPICS	5
連結財務諸表(要約)	7
会社概要	9
株式情報	10

ごあいさつと業績のご報告

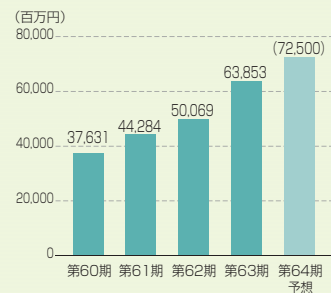


代表取締役会長
澤井 弘行

代表取締役社長
澤井 光郎

第63期 連結財務ハイライト

売上高



※()は通期の予想

大幅な増収増益により過去最高益を更新。期末配当も30円増配しました。

第63期の株主通信をお届けするに当たり、東日本大震災において被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

当社には幸いに人的な被害はなく、生産設備面でも関東工場の損害は軽微にとどまり、操業への影響はありませんでした。建物が一部損壊した仙台支店は移転を余儀なくされましたが、すでに通常の営業活動を再開しています。

当期の医療用医薬品業界は引き続きジェネリック医薬品の市場拡大は進んだものの、昨年12月に中医協が「ジェネリック医薬品調剤率は頭打ちの傾向」という調査結果を公表したように、その勢いは当初に比べ緩やかになりつつあります。また11月に販売を開始した経口血糖降下剤「グリメピリド錠」に28社が参入するなど競争はますます厳しさを増しています。

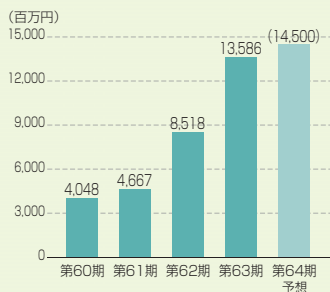
こうした状況の下、当社グループは中期経営計画「M1 TRUST」に掲げた「マーケティング強化による『営業品質の向上』」、「『安定供給のサワイ』の信頼構築と製造コスト低減」、「市場ニーズを捉えた高付加価値ジェネリック医薬品の開発推進」、「売上高1,000億円に向けた体制づくり」といった諸

施策に取り組んでできました。その結果、当期の連結業績は、売上高63,853百万円(前期比27.5%増)、営業利益13,586百万円(同59.5%増)、経常利益12,703百万円(同51.1%増)、当期純利益7,183百万円(同44.2%増)と増収増益を達成することができました。配当も業績の順調な推移と株主様のご支援に応えるべく、期末70円(通期110円)と大幅に増配することになりました。

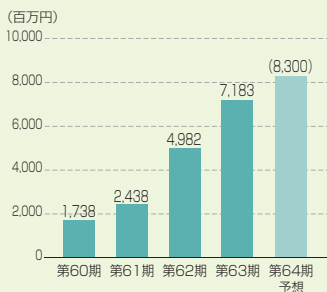
次期は新たな制度改革はないものの、政府の目標であるジェネリック医薬品シェア30%(数量ベース)達成に向けて、さらなるジェネリック医薬品使用促進が進むものと考えています。このような状況の下、当社は一層の業績進展に努め、売上高72,500百万円(前期比13.5%増)、営業利益14,500百万円(同6.7%増)、経常利益14,400百万円(同13.4%増)、当期純利益8,300百万円(同15.5%増)を見込んでいます。

今後とも「なによりも患者さんのために」の理念のもと、さらなる飛躍を目指して邁進してまいりますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

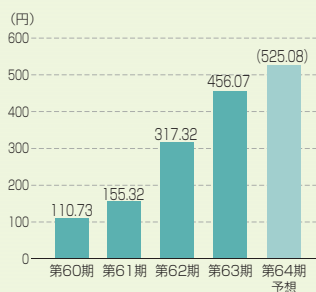
営業利益



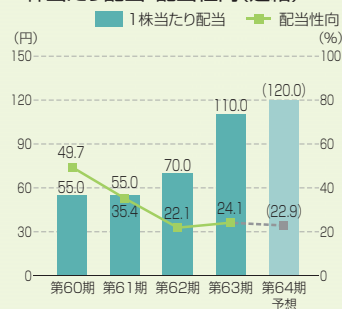
当期純利益



1株当たり当期純利益



1株当たり配当/配当性向(連結)



中期経営計画「M1 TRUST」の目標達成と、その先の成長に向けた取り組みを進めています。



Q. 中期経営計画(中計)の進捗状況をお教えてください。

A. 本年度は中計の目標を上回ることができ、順調に進捗しています。

制度変更によるジェネリック医薬品の使用拡大を受け、保険薬局市場での販売が売上拡大を牽引しました。また、薬価改定によるマイナスを、増収による利益増とコストコントロールで吸収し、大幅増益を達成できました。

本中計「M1 TRUST」もいよいよ最終年度となりますが、手綱を緩めることなく、着実に目標を達成したいと考えています。

2010年度の中計目標と実績

	売上高	営業利益	当期純利益
中計目標	620億円	87億円	45億円
実績	638億円	135億円	71億円

Q. 本年度はどんな薬が売れましたか？

A. 収載年度(発売年)で見ると、昨年および一昨年の新製品が全体の伸びを大きく引っ張っています。また薬効別に見ると、ラソプランOD錠をはじめとする消化器官用薬が売上で41.7%、アムロジピン錠等の循環器官用薬が27.6%と大きく伸びたのが、全体の売上増加に貢献しました。

Q. これからの展望をお聞かせください。

A. 厚労省の「高齢者医療制度改革会議」では、2020年度には国民医療費が47.2兆円になると試算されており、当社では医療用医薬品の市場が10兆円以上、ジェネリック医薬品の市場も数量ベースで40%以上に達すると予測しています。

そして、政府目標である2012年度までに数量ベースで30%以上に到達した場合には、2009年と比べ業界全体で160億錠以上の需要増が予想されます。当社ではこうした需要増に応え、安定供給業界No.1の地位の維持とさらなる成長を実現するため、千葉県茂原市に新工場を建設し、2012年度末には現在の3割以上増となる生産能力80億錠体制とすることを計画しています。

新工場は、高い信頼を得られる最新鋭のもので、日・米・欧の三極の法規制に対応させ、省力・無人化など最新鋭の生産

設備を備えるとともに、環境負荷が低い、地域公開型工場とするなど、企業の社会的責任の面でも最先端の工場にしたいと考えています。

(新工場 完成予想図)



Q. さらなる成長に向けて、どのような成長戦略を描かれていますか？

A. さらなる成長のためには、①抗がん剤領域の取り組み、②バイオシミラー戦略、③提携戦略の3つが必要と考えています。

抗がん剤領域では情報提供力の強化や認知度向上に向けた全社一丸での取り組みを推進します。バイオ医薬品の後続品(後発品)であるバイオシミラーはターゲットとなる医薬品を絞り込むとともに、共同開発等により効率的な取り組みを進めます。提携戦略は①海外市場進出を目的としたもの、②バイオシミラーを含む新規事業のためのもの、③新薬とジェネリック医薬品を手がける革新的な「ハイブリッド型製薬企業」実現のためのものの3つの視点から考えています。

1
抗がん剤領域の
取り組み

情報提供力の強化、
抗がん剤領域での認知度向上により、
2013年度売上100億円
(業価ベース)をめざす。

2
バイオシミラー
戦略

抗体医薬にフォーカス。製剤開発
～上市を手がける。
他社との共同開発を前提とする。

3
提携戦略

①海外市場進出
②バイオシミラーを含む新規事業のための共同開発等
③「ハイブリッド型製薬企業」実現
——3つの視点から提携戦略を推進する。

国の医療費増大への危機感が患者さん・薬剤師ともに85%以上！ジェネリック医薬品(GE)の積極活用も増加傾向に。

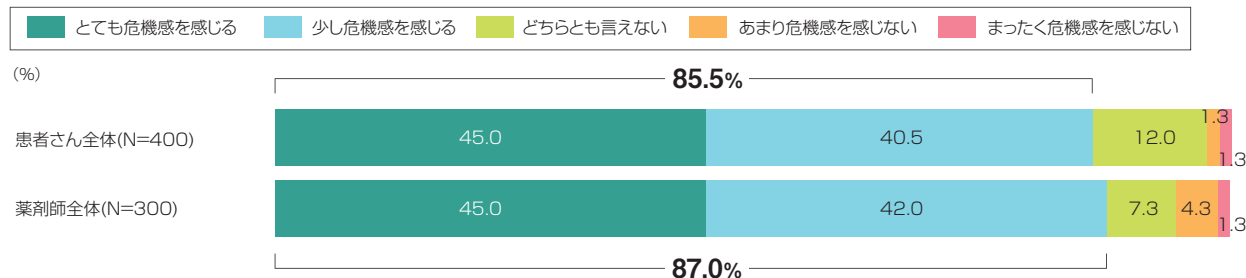
昨年11月に、過去3ヶ月以内に薬を処方・調剤された患者さんおよび全国の薬剤師を対象に意識調査を行いました。

患者さん・薬剤師ともに国の医療費増大への危機感を持つ方は85%を超えて圧倒的多数。しかしGEが「国の医療費節減につながる」ことを知っている患者さんは33.5%と低く、医療費増大への危機感とGEへの内容理解度には乖離があることが分かりました。薬剤師の場合は「国の医療費節減につながる」が93.7%と高い割合を示すとともに、危機感の高い人ほど積極的に活用する方針をもっていることが分かりました。

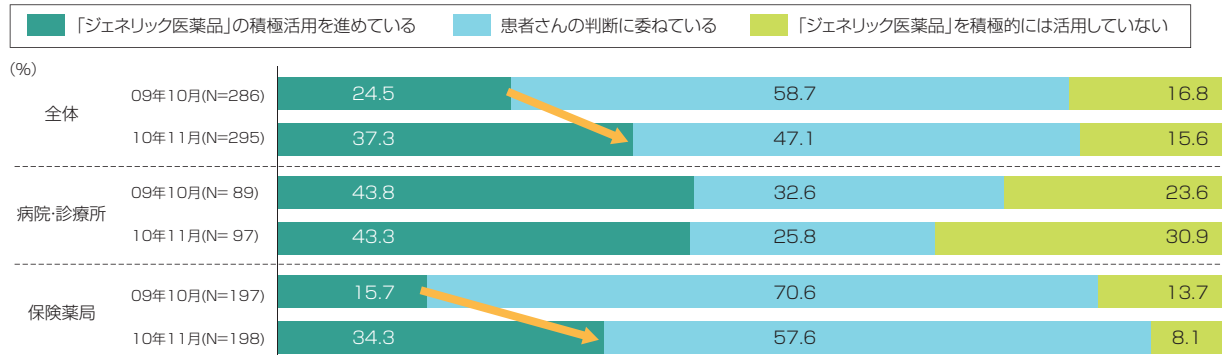
また、GEを積極的に活用する薬剤師の割合は37.3%と1年前と比べ約1.5倍に増加。保険薬局の薬剤師においては2倍以上に増加するなど、着実に活用が浸透しているようです。

しかしながら、患者さんの約7割が依然として「ジェネリックに関する説明を受けなかった」と回答するなど、調剤現場での浸透はまだまだ十分とは言えず、これからも患者さんへの啓発・理解促進活動とともに、薬剤師の方々により安心して調剤いただけるようにするための情報提供活動が欠かせないことが分かりました。

■ 国の医療費増大への危機感(患者さん・薬剤師対象)



■ ジェネリック医薬品の活用方針(薬剤師対象)



6月に11成分14品目の新製品を発売しました

今回の主要な新製品としては、糖尿病治療剤の「ピオグリタゾン錠」と脳保護剤の「エダラボン点滴静注液」が挙げられます。「ピオグリタゾン錠」は、インスリン抵抗性を改善する薬剤で、糖尿病治療剤の中では最も大きな市場規模を持つ薬剤です。「エダラボン点滴静注液」は、脳梗塞時に発生するフリーラジカル(活性酸素の一種)を消去する作用があり、フリーラジカルによって他の脳細胞等がさらに破壊されることを抑制することで脳保護効果が期待される薬剤です。「エダラボン点滴静注液」は、DPC病院において多くの脳梗塞患者さんに使用されており、DPC病院における販売強化を図りたい当社に

■主な新製品

糖尿病治療剤	ピオグリタゾン錠15mg「サワイ」
	ピオグリタゾン錠30mg「サワイ」
脳保護剤 (フリーラジカルスカベンジャー)	エダラボン点滴静注液30mg「サワイ」
	エダラボン点滴静注液30mgバッグ「サワイ」

とって期待の新製品です。また、当社が販売する「エダラボン点滴静注液30mgバッグ」は、外袋の製品名が上下どちらから見ても分かりやすいなど、医療従事者にとって使いやすい工夫もなされています。



ピオグリタゾン錠 15mg「サワイ」
ピオグリタゾン錠 30mg「サワイ」
エダラボン点滴静注液 30mg「サワイ」
エダラボン点滴静注液 30mgバッグ「サワイ」

2011年度の 最優秀ジェネリック医薬品賞受賞

当社の抗アレルギー薬「セチリジン塩酸塩OD錠」が、NPO法人ジェネリック医薬品協議会の「2011年最優秀ジェネリック医薬品賞」を受賞しました。

今回の受賞は、水無しで服用できるOD錠へのニーズにお応えし、より苦みや酸味が少なく飲みやすいお薬を追求する当社の製剤技術と姿勢が認められたものです。

今回の受賞を励みに、これからも「なによりも患者さんのために」という理念のもと、患者さんや医療従事者の皆様のニーズに的確にお応えできるよう、製剤技術を結集し、付加価値ジェネリック医薬品の開発に取り組んでまいります。



ジェネリック医薬品メーカーで 好感度No.1を獲得しました。

薬局・薬剤師向けの専門誌「日経ドラッグインフォメーション」が薬剤師を対象に行ったWEB調査*で、当社がジェネリック医薬品メーカーで最も支持を集め、好感いただいていることが分かりました。

当社を選んでいただいた方の72.4%が「供給が安定しているから」、59.0%が「取扱品目が多いから」を挙げられており、「患者さんへの安定供給」を掲げる当社の姿勢が支持・好感されていることが分かりました。

今後も高品質の医薬品の安定供給に努め、薬剤師からさらに支持される企業になっていきたいと考えています。



*出典: 日経ドラッグインフォメーション 2010年11月号

連結財務諸表(要約)

連結損益計算書

単位：百万円

科目	当連結会計年度 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日	前連結会計年度 平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
① 売上高	63,853	50,069
売上原価	33,736	26,274
売上総利益	30,117	23,794
販売費及び一般管理費	16,530	15,275
② 営業利益	13,586	8,518
営業外収益	285	172
営業外費用	1,168	284
経常利益	12,703	8,406
特別利益	598	—
特別損失	1,012	34
税金等調整前当期純利益	12,289	8,372
法人税、住民税及び事業税	4,978	3,571
法人税等調整額	△ 14	△ 432
少数株主利益	141	250
当期純利益	7,183	4,982

Point ① 売上高

制度改正により保険薬局市場におけるジェネリック医薬品の使用が拡大し、売上高は前期比27.5%増の63,853百万円となりました。

Point ② 営業利益

薬価改定の影響を増収による利益増と生産性向上、コストコントロール等により吸収し、営業利益は前期比59.5%増の13,586百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	当連結会計年度 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日	前連結会計年度 平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,938	7,906
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 20,362	△ 5,328
財務活動によるキャッシュ・フロー	24,755	347
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	10,331	2,926
現金及び現金同等物の期首残高	9,474	6,548
現金及び現金同等物の期末残高	19,805	9,474

連結包括利益計算書

単位：百万円

科目	当連結会計年度 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日	前連結会計年度 平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
少数株主損益調整前当期純利益	7,324	—
その他の包括利益	△ 43	—
その他有価証券評価差額金	△ 43	—
① 包括利益	7,281	—
(内訳)		
親会社株式に係る包括利益	7,139	—
少数株主に係る包括利益	141	—

包括利益について

包括利益とは、一会計年度中に認識された純資産の変動額のうち、純資産に対する持分所有者との直接的な取引によらない部分をいいます。純資産の変動額と当期純利益に関する情報とを併せて利用することにより、企業活動の成果についての情報の全体的な有用性を高めることを目的としています。

連結貸借対照表

単位：百万円

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	平成23年3月31日	平成22年3月31日
資産の部		
流動資産	77,494	48,016
現金及び預金	30,805	9,474
受取手形及び売掛金	23,284	18,540
たな卸資産	21,217	18,081
繰延税金資産	1,811	1,786
その他	397	144
貸倒引当金	△ 21	△ 10
固定資産	39,561	33,219
有形固定資産	32,316	31,784
建物及び構築物	18,278	18,068
機械装置及び運搬具	7,108	6,608
土地	4,949	5,139
リース資産	14	18
建設仮勘定	494	569
その他	1,471	1,379
無形固定資産	1,148	478
投資その他の資産	6,096	956
投資有価証券	5,702	658
長期貸付金	17	54
その他	440	290
貸倒引当金	△ 64	△ 46
資産合計	117,056	81,235

単位：百万円

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	平成23年3月31日	平成22年3月31日
負債の部		
流動負債	25,810	25,441
支払手形及び買掛金	9,849	10,039
短期借入金	2,659	6,602
リース債務	7	12
未払金	7,734	4,072
未払法人税等	3,143	2,658
引当金	2,064	1,775
その他	352	279
固定負債	40,382	9,536
新株予約権付社債	30,662	—
長期借入金	8,161	8,171
リース債務	10	11
繰延税金負債	166	185
引当金	429	363
負ののれん	12	26
長期預り金	938	779
負債合計	66,192	34,978
純資産の部		
株主資本	50,635	44,086
資本金	11,814	11,501
資本剰余金	12,137	11,825
利益剰余金	26,687	20,762
自己株式	△ 3	△ 3
その他の包括利益累計額	110	153
その他有価証券評価差額金	110	153
新株予約権	108	201
少数株主持分	9	1,815
純資産合計	50,863	46,257
負債純資産合計	117,056	81,235

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

単位：百万円

科目	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計			
前期末残高	11,501	11,825	20,762	△ 3	44,086	153	153	201	1,815	46,257
当期変動額										
新株の発行(新株予約権の行使)	312	312			624			△ 132		491
剰余金の配当			△ 1,259		△ 1,259				△ 455	△ 1,715
当期純利益			7,183		7,183					7,183
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 43	△ 43	39	△ 1,350	△ 1,354
当期変動額合計	312	312	5,924	△ 0	6,548	△ 43	△ 43	△ 93	△ 1,806	4,605
当期末残高	11,814	12,137	26,687	△ 3	50,635	110	110	108	9	50,863

● 会社の概要 (平成23年3月31日現在)

社名	沢井製薬株式会社	
創業	昭和4年4月1日	
設立	昭和23年7月1日	
資本金	118億1,413万円	
従業員数	912名 (連結)	
事業内容	医薬品の製造販売および輸出入	
販売品目	生活習慣病(高血圧症、脂質異常症、糖尿病等)治療剤、抗がん剤など医療用医薬品約540品目および一般用医薬品	
主要取引銀行	三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行	
ご採用先	国立病院など全国約7,400病院(カバー率約84.3%)、約32,400医院・診療所(約31.5%)、および約48,500保険薬局(約87.0%)	
特約店及び販売代理店	特約店	アルフレッサ(株)、スズケン(株)、東邦薬品(株)、(株)メディセオほか広域卸約30社
	販売代理店	西部沢井薬品ほか販売会社約120社、海外1社
提携会社	旭化成ファーマ(株)、積水メディカル(株)、田辺三菱製薬(株)、日本化薬(株)、バイエル薬品(株)、扶桑薬品工業(株)、Meiji Seika ファルマ(株)ほか	

● 役員 (平成23年6月23日現在)

代表取締役会長	澤井 弘行	取締役	高橋 嘉輝
代表取締役社長	澤井 光郎	取締役	小玉 稔
常務取締役	岩佐 孝	取締役	澤井 健造
常務取締役	戸谷 治雅	常勤監査役	小西 俊明
常務取締役	木村 圭一	監査役	澤井 武清
常務取締役	横浜 重晴	社外監査役	上田 耕治
取締役	稲荷 恭三	社外監査役	菅尾 英文
取締役	徳山 慎一	社外監査役	高橋 孝志

● 本社・事業所・グループ会社 (平成23年3月31日現在)

本社・研究所	大阪市淀川区宮原5丁目2-30
支店	札幌、仙台、さいたま、東京、名古屋、大阪、広島、福岡
営業所	上信越、東京東、東京西、横浜、静岡、京都、神戸、北陸、高松、岡山、熊本
工場・研究所	九州工場、三田工場、大阪工場、関東工場、メディサ新薬九州工場、化研生薬八郷工場、製剤研究センター
子会社	メディサ新薬株式会社、化研生薬株式会社、ケーエム合同会社

● 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
配当金受領株主確定日	毎年3月31日および中間配当を行うときは毎年9月30日
基準日	定時株主総会については3月31日といたします。 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-78-2031 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告としております。ただし、事故やその他止むを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 ※公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.sawai.co.jp/ir/index.html

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告をなされる際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただきます。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

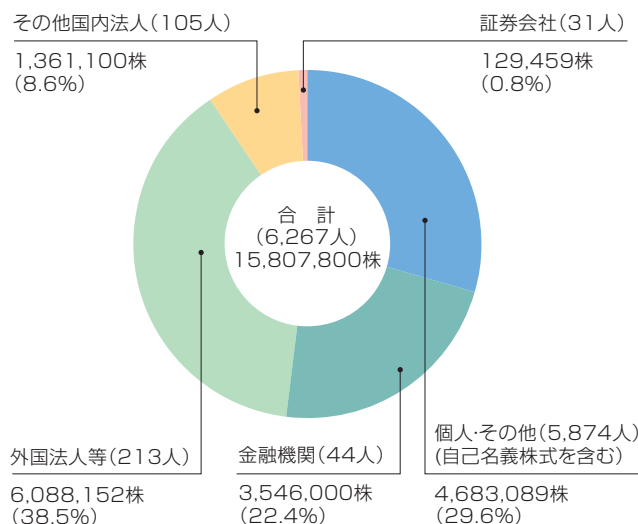
株式状況

発行可能株式の総数	38,800,000株
発行済株式の総数	15,807,800株
1単元の株式の数	100株
株 主 数	6,267名

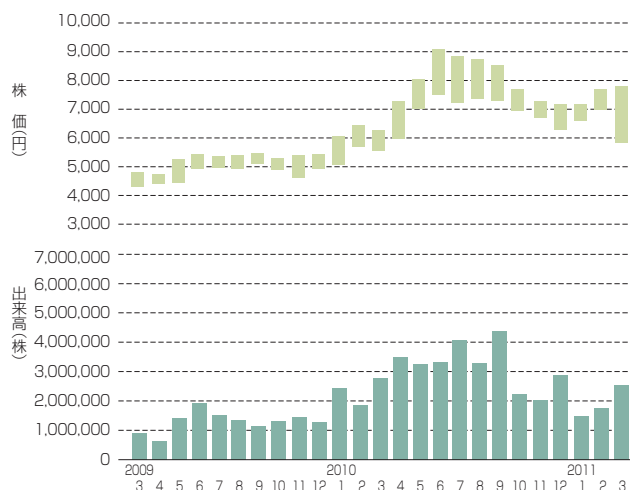
大株主

株 主 名	持 株 数
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	804,100株
澤井 光郎	771,500株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	507,400株
サワケン株式会社	487,000株
澤井 健造	484,000株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	482,000株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505044	410,700株
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラー・アカウント	394,230株
澤井 弘行	315,400株
澤井 治郎	307,900株

株式分布状況



株価 (高値・安値) および出来高の推移





コミュニケーション広場

— お財布にやさしい健康情報サイト「健康かけいぼ」 —



「健康かけいぼ」で募集の『わたしとジェネリック』エピソード大賞、決定!

当社が運営する情報サイト「健康かけいぼ」で募集した「『わたしとジェネリック』エピソード」に全国から1,121作品もの応募をいただきました。厳正なる審査の結果、「ジェネリックエピソード大賞」1点、「健康かけいぼ賞」2点、「入賞」10点が決まりました。作品は「健康かけいぼ」で掲載しています。心温まるエピソード、医療現場での体験など、どれも貴重な声ばかり。ぜひ一度ご覧ください。



健康かけいぼ

「健康は最大の節約」をコンセプトに、当社がプロデュースするお財布にやさしい健康情報を掲載するウェブサイト。

ぜひご利用ください ▶

<http://www.sawai.co.jp/kenko-kakeibo/>

※当社コーポレートサイトのトップページからもリンクしています。

ジェネリックエピソード大賞

U・Nさん 神奈川県 51歳



文系出身のおじさんの割には、早くからネットに親しんでいたせいか、海外では60%以上使われているジェネリック医薬品の処方箋を、早くからお医者さんをお願いしていました。ここ数年、ようやくリクエストに応えていただける先生や調剤薬局が増えてきたように感じて、ちょっと嬉しく感じています。

先日、家族が順番に風邪をひき、次男・長女・家内・私とジェネリック医薬品のお世話になりました。

「う～ん、さすがに4人分なら、コスト差もあるんじゃないか?」と思い、かんたん差額計算(日本ジェネリック製薬協会のサイト)で、初めて計算してみました。で、めでたく約1,200円の家計救済&国費削減!

実は、ここからが本番で、昼食時に薬を取り出したメンバーにこの話を会社でしたところ、「慢性の治療ならずいぶん変わるんでしょうね?」と聞かれ、早速、糖尿・高血圧・花粉症・腰痛等など…おじさん軍団に、かんたん差額計算サイトで計算してあげると、「お～、年に1万円以上安い!早速、ジェネリックにしたらもらおう」と盛り上がり、年明けに数人から「家で話したら家内も喜んでいたので、早速ジェネリックに替えてもらいました」と感謝の弁あり!

新薬を否定する訳ではないので、時代のニーズを先取りして10年がかりでの沢山の失敗の中から生まれてデビューできる良い新薬と、スタンダードになった医薬品、特に慢性疾患には、是非ジェネリック医薬品の一層の普及が進むと良いですね。

沢井製薬株式会社

大阪市淀川区宮原5丁目2-30 〒532-0003

TEL: 06-6105-5711 FAX: 06-6394-7311

URL: <http://www.sawai.co.jp>